

1912	1,738,514	25,090	6,700	38,821	26,103	110,734	275,317	99,439	25,196	57,755	50,355	13,968	194,273	89,950	46,654	1719	2,901,769
1913	1,932,153	26,744	21,595	61,757	49,932	176,095	465,229	104,296	50,356	64,664	50,637	18,524	228,332	48,216	43,455	1750	3,332,882
1914	1,683,553	22,288	25,246	34,335	32,815	114,052	*387,162	118,153	42,981	85,861	54,204	15,163	162,937	37,825	*36,148	1319	*2,852,753
1915	650,919	13,289	8,725	+	45,198	23,402	+	113,075	22,132	49,408	62,070	20,319	157,167	20,203	*13,641	743	*1,201,638

注意：一 \*印を付したるは正確を期し難きもの 十印は全く未詳のものなり

(造船第五號拔)

## ●戦亂勃發後の獨逸經濟實狀

### 鐵工業に關する狀況

△工業動員の迅速 今次の大戦に於て兵器並に一般軍需品の豊富なるは、内外の等しく驚嘆する所なるか、其實況を察するにクルップの如き二三の兵器専門工場を除けば戦時なりとて、特に事業の新設又は擴張を試みたるもの殆ど之れ無きに似たり、蓋し孤立經濟の現状に於ては、現に有する工業力を利用する以外補充の道無ければ也、只平時輸出品の製作に充當せる約五割の工業能力は勿論、自餘の能力をも舉げて軍器の製造に集中せしめたる點に於て趣を異にするに過ぎざるなり、さあれ平時より戦時に對する準備を怠らす、各工業を系統的組織的に發達訓練せずんば奚てか之を克くし得べき、今軍器供給力の尺度を以て稱せらるゝ製鐵業に就て、戦前の狀況を見るに、獨逸國千八百八十六年の銑鐵産額は七十五萬餘噸にして、英國の三分の一にも及ばざりしか、千九百年には、一躍六百六十四萬餘噸を産して英國を遙に凌駕し、千九百十二年に至りては、千七百三十萬餘噸恰も英國の二倍半強を示したり、即ち其國內に鐵鑛石と石炭の埋藏量洵に豊富にして、地の利を得たるに加へ、科學的研究に基く作業能力の優秀なる結果と見るべき也、而して斯業の生産狀況は、克く戦時に適合し開戦後三

四箇月にして早く既に應急の準備成りたるか、殊に最も見るべきは、各製鐵製鋼者間に組織せらるゝシンヂケートの活動なり、例へば資本金一億二千五百萬圓を擁するデュセルドルフ鋼鐵組合の如く常に政府を援けて價格の均一を圖り、以て一方軍需品の供給に備ふると共に、他方民間の需用にも應し、其の間の調節宜しきを得るに力を盡したり、次に金屬加工業戰前の狀況を顧みるに、斯業發達の素因を爲せる一般教育特殊教育の普及、世界に冠絶せりと稱せらるゝ丈けに、斯業の隆盛亦大に注目に値す、今之を察知するの料として、斯業數種の製品の輸出入關係を數字に依り示さんに左の如し。

	輸 出		輸 入	
	一九〇七年 千磅	一九一三年 千磅	一九〇七年 千磅	一九一三年 千磅
エンジン	一、七八五	二、五七〇	五〇	三〇
紡績機械	四、〇九〇	五、一九五	一、三九〇	九二〇
金屬機械	三、三一五	四、〇九〇	四七五	四三五
電氣モーター	一、七一五	二、八二五	九五	一五五
電氣線	二、二六〇	一、九六五	七五	一〇五
鐵道運搬具	一、〇九五	一、五六〇	二五	一〇五
旅客自動車	・五九五	三、三五〇	八五〇	六一〇

以上諸品の輸出額は逐年増加の傾向著しかりしか、戰亂勃發以來輸出全く杜絶すると共に其生産力は軍器の製造に専用され以て戰線に對する兵器の供給を完備せしめたり、余の信する所に於ては今日に於ても獨逸一國の供給力は英佛兩國の總供給力に略ほ相似たるへしと斷するに躊躇せず、更に化學工業電氣事業の發達せる亦今更爰に喋々を須るさるへし、獨逸は果して上述各種の工業を幾何の程度迄戰時應急の用に供したりや、之れ最も研究を要すべき問題なるへし、余は之に關し獨逸に於ける最近の銑鐵産額を竊査するを以て捷徑なりと信す、蓋し同國は其産出の鐵鑛に對し輸出禁止の政策を採りつゝあるに見れば僅少なる國內消費額を除き全部軍器の製造に供用され居れりと見

るを得へければ也、今千九百十四年並に千九百十五年に於ける斯國月別の鐵鋼生産狀況を數字に檢するに如左。

月	一九一四年		一九一五年	
	千磅	噸	千磅	噸
一月	一、五六六	八七一	一、〇五〇	八〇〇
二月	一、四四五	八〇三	五八〇	一、〇三三
三月	一、六〇二	九三八	七二九	一、〇八〇
四月	一、五三四	九三八	七八八	一、〇二〇
五月	一、六〇七	九八五	八五三	一、〇三〇
六月	一、五六一	一、〇四七	一四、三九二	一一、七九〇
七月	一、五三一	九九三	合計	

▲備考 英國は千九百十四年に九百十萬噸千九百十五年に八百八十萬噸の産出あり

即ち戰亂勃發の千九百十四年八月以降數箇月間は戰前に比し毎月産額約六割を減少せるか這は壯丁出征して勞力の不足を來したる結果と謂ふべき也、然るに一昨年末各工場共戰時狀態に組織の變更を試みたるより、昨春には平時能力の七割に増加し、爾來同步調を辿りて今日に至れり、而して平時の獨逸鐵産額中約五割は國外に輸出し、殘餘の五割は國內の需要に充當し來れる狀態なるか、戰時海外の輸出を禁止すると共に國內消費をも節約し居れば結局現在産額の大部分は軍器製造の原料に使用されつゝありと見るを得ん、随つて開戰以降兵器製造の諸工場は晝夜間斷無き活動を續け多大の利益を擧げ居れるか、會社當事者は何れも利益の處分に就て極端なる保守主義を採り其大部分は積立金として戰後の經營に備へ居れるに似たり、現にクルップ會社の如き一昨年末の決算に於て純益四千七百九十萬圓(前年度は二千四十一萬圓)にして總資本に對し三割八分強の好成绩を示したり、而も株主配當金は依然一割二歩とし殘餘の大半は出征軍人遺族扶助其他の慈善事業に出資せり。

(農商務省囑託佐伯氏報告)